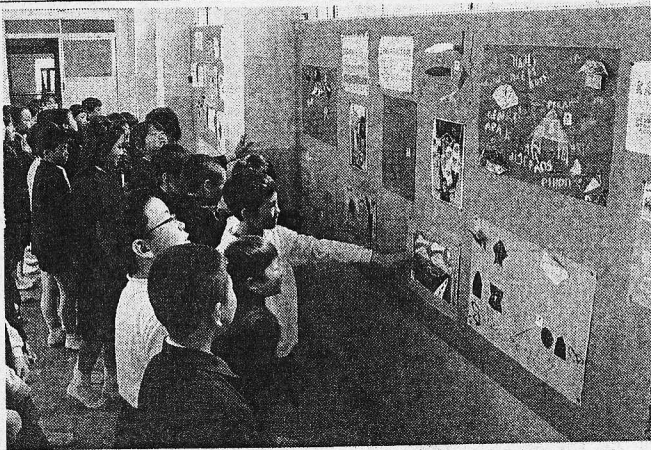


インドネシアの津波被災児と交流 届いた作品展示

岡山・西小 絵や写真30点

一昨年のスマトラ沖地震に伴う津波被災児と交流している岡山市中仙町、西小学校で十八日から、最大被災地インドネシア・アチェ州の子どもたちから届いた作品の展示が始まった。



インドネシア・アチェ州の小学生の作品に見入る西小5年生

年十二月、被災から一年

えられている。

たった友達を励まそうと

交流を計画。復興支援し

ている国際医療ボランティア

IAMDA（本部・岡

山市榎津）を通じて今年

一月、津波後に再建され

た二小学校にカレンダー

やアクセサリーなど約三

十点を贈り、三月下旬、

お礼の作品が届いた。

二階渡り廊下に展示さ

れた作品は、カラフルな

画用紙に学校の様子や現

地の伝統文化、特産品な

どを絵や切り絵、写真な

どで表現した約三十点。

「アチェに遊びに来てね」

「会いたいです」など、

日本語のメッセージも添

か、山陽新聞社から提供された被災状況や子どもたちの写真、記事なども展示。この日は参観日で、訪れた保護者も子どもたちの「交流の証し」に見入っていた。作品は、広く一般の人にも見てもらうため、五月上旬からは同市田中、御南西公民館に展示する予定。

延原巧実君（○）と岡崎



真由子さん（○）は「私たちの気持ちが届くか心配したけれど、厳しい環境の中、作品を返してくれてとてもうれしかった。多くの人に見てもらいたい」と話していた。

（斎藤章一朗）